

生徒感想文

国境を越えた出会いと経験が

生徒たちにもたらす多大な影響

異国の同世代から学んだ充実の6日間!!

【大久保 夏輝（1年 北本市立東中学校出身） ～国際類型グローバルコース～ 】

私は、1月12日から1月17日までの4泊6日、カンボジア研修旅行で様々なことを見て感じました。色々な場所に訪問して様々な人と交流し、新しい発見や驚きがたくさんありました。その一つひとつがとても新鮮でした。

カンボジアで私が感じたことの中で、強く印象に残ったことがいくつかありました。一つ目が現地の人々のあたたかさでした。とても友好的で話しやすく、授業中に現地の学校に訪問したにもかかわらず、こころよく歓迎してくださいました。授業に参加させていただいたとき、クメール語が分からない私たちに生徒たちが授業の内容を英語で教えてくれました。生徒のみんなに「勉強が好きか」と質問したとき、全員が「大好き」と答えました。日本との勉強に対する意欲の違いが顕著に表れていました。ですが、学校の勉強への設備は日本と違いとても悪いと感じました。二人の生徒に「学校での勉強で何か不便なことがあるか」と質問すると、二人とも「科学・理科・生物で使用する実験器具がなく、満足に勉強できない」と答えてくれました。そのとき私は、いかに日本で教育制度が恵まれているかと思い知らされました。勉強が大好きなのにそれを行える設備がないのはその子供たちの未来を奪うものだと強く思いました。

私は現在カンボジア研修旅行が終了し日本に帰国しました。そして今回の研修で感じた事、考えた事を学校だけでなく日本のみんなに伝えたいと強く思いました。これからは、今回勉強させていただいた事をみんなに伝えると同時に自分も勉強に対する認識を改めようと考えました。

【辻 本 真 子（1年 さいたま市立植水中学校出身） ～国際類型グローバルコース～ 】

私たちは、今回のカンボジア研修旅行期間で多くの学校や研修機関に訪問しました。それゆえに、本文では主にカンボジアの教育問題について書きます。

まずは、カンボジアの義務教育の現況について、個人的な見解を語りたいと思います。カンボジアでは日本と同じく9年生義務教育になっています。しかし、日本の全日制とは違い、カンボジアは午前の部・午後の部と二部制授業です。原因の一つとして、教育基金の不足により、学校の数が児童青少年の数と比べ極端に少ないことや公務員としての先生の給料が日常生活も維持できないほど低いからと考えられます。

また、二部制授業により、学校だけでは学習時間が足りないため、有料な塾に通う学生が多い様です。つまり、義務教育という体制が存在するにもかかわらず貧困家庭生まれの未成年者は十分な教育を受けることができません。

前記の内容は、学校に通うことができる学生を前提として書いています。しかし、実際の場合、カンボジアでは義務教育と言えども、受けている人は少なく、69%の人は小学校まで勉強するがそのうちの19%しか中学校に通うことができません。つまり、私たちが訪問した高校の高校生も少数の中の少数です。

最後に、カンボジアでは児童労働という深刻な社会現象があります。全児童数の36%が児童労働をしているというデータもあります。

私はさすがに児童労働をする場面を見られませんが、子どもが親と一緒に物を売る場面はよく見ました。生きるために、幼い子どもも物を売らなくてはいけないのだと知り、私は驚きました。子どもの笑顔を守りたいなどきれいなことは言うつもりはありませんが、私は、どうしても社会の一員として、カンボジアの教育現状、生活状況の改善に少しでも力になりたいと思います。

私は、自分にできそうなことを考えてみました。今回の経験をもっと多くの人に知らせ、少しでも多くの力を集めること。また、この研修旅行を詳しく記載する文章を書き、それらを JICA に投稿しようと考えています。

【桑原綾乃（1年 春日部市立中野中学校出身） ～進学類型文理選抜コース～】

4日間のカンボジア研修を終えて、学んだ事や感じた事がたくさんあります。その中で二つのことが、すごく印象に残っています。

一つ目は、子どもたちの勉強に対する意欲と笑顔です。カンボジアの子ども達はとても元気で明るくみんな勉強が好きです。1日目に小中学校訪問と一緒に授業を受けました。その時、みんな意欲的で手をあげて発言しているのを見て、私の周りではあまり見ない光景でした。そして、私も勉強を頑張らなくてはと思いました。1人ひとりに教科書があり、学校施設が整っている日本と比べ、カンボジアは教科書は使い回して施設もあまり整っていない状況が見られました。教育環境が整っている日本は、それをあたり前にしてしまっているように感じました。せっかく勉強できる環境があるので、カンボジアの子ども達を見習いたいと感じました。

二つ目は、キリングフィールドです。キリングフィールドは、カンボジアで起きた内戦の時代を知れる場所です。たくさんの知識人や大人が殺され、子どもは戦争のための教育をさせられました。私がそこで感じた事はあまり知らない人が多いようで日本との違いを感じました。日本では、二度と起こらないように、同じ過ちを犯さないよう勉強します。しかし、カンボジアの人は深く内容を理解せず悲しい出来事は忘れるという考えだそうです。私は知らなければいいのか、知っていた方がいいのか考えさせられました。私はやはり過去の過ちは知った方が良いと思いました。日本とカンボジアの違いをすごく実感しました。

最後に、このカンボジア研修を終えて吸収することが多くありました。この経験を活かしていきたいです。

【齋藤綿韻（1年 川口市立幸並中学校出身） ～進学類型文理進学コース～】

私は、カンボジア研修旅行に行ってきたたくさん学びました。

まず教育について学びました。義務教育は日本と同じく無料でした。ですが、午前と午後で生徒が入れ替わり授業を受けることにびっくりしました。学校の科目では、必要な科目だけをやるそうです。カンボジアでは、大学を卒業しなくても、働くことができるそうです。ですが、あまり良い所で働けないそうです。大学を卒業しても、外国語を話せないことも、だめだそうです。特に今回私たちがお世話になったシムリアップでは、最低英語が話せないとだめなようです。ここでも日本とちがうのが、日本は良い大学を卒業すれば、基本外国語を話さなくても良いところで働けます。また、カンボジアは授業が半日のため、塾にいかないと、学校の授業についていけず、お金がないと勉強についていけないという現実をみせられました。実際に学校に行ってみると、みんなとても笑顔でした。一つのクラスの年齢は、日本みたく必ず同世代ではなく、みんなバラバラでした。そこに私は、早く入学出来る子と出来ない子の差があることが、わかりました。小さい子の中にはお洋服がダボダボだったり、くつを履いていない子がいました。私はその子たちを見てとても泣きそうになりました。カンボジアではバレーボールが人気のスポーツらしくネットが張ってありました。私がお邪魔させていただいたクラスには、私と同じ15歳の子が何人かいました。同じ歳なのに、私よりも細く小さい体でした。食料の違いがまだあるんだろうなと思いました。私は途上国の学校を写真でしか見た事はありませんでしたが、自分の目でみると写真では感じないものを感じられました。みんな素直で勉強を頑張っている姿にとっても感動しました。休み時間カンボジアで伝統の遊びを教えてくださいました。わずかな数時間でしたが、とても楽しく一生忘れられない思い出が出来ました。私はまたいつか、なるべく近いうちにカヴィアン・セカンダリースクールに行って、私の大好きな笑顔を見たいと思います。

そして次に学んだのが交通面です。シムリアップは道路などが整備されていましたが、少し離れるとガタガタでした。そして田舎の方ではお店もないため、お金がないお家でもバイクを買わなければ大変そうです。日本ではなかなかガタガタしているアスファルトは経験していないため驚きました。また、ガソリンスタンドが近くにない町では、ペットボトルに入れられ、びっくりして、思わず写真を撮りました。日本にはない町の風景で、すべてが新鮮でした。

私がとても刺激を受けたのが、クロライン高校です。みんな同じ高校生なのに、英語の実力が全く異なり圧倒されてしまいました。私は彼らといつか普通に話せるように英語を頑張っていきたいです。

孤児院では、みんな輝いていて、積極的でした。そしてここを訪れて感じたのは、あくまで私が感じたことですが、小中学校の方が貧しい感じがしました。

この研修旅行で感じたことは、みんなの笑顔がすてきで、心がとても純粹って事が伝わり守りたいと思いました。今回は本当にありがとうございました。

【辻 本 優 香（1年 川口市立戸塚中学校出身） ～進学類型保健医療コース～ 】

私は今回の研修でたくさんのことを学びました。また、たくさんを感じました。

小中学校、高等学校、日本語学校、孤児院の生徒さん方に共通していえることは勉強熱心なことです。小中学校、孤児院の生徒さんは私よりも幼いのに英語を話すことができていました。皆さん、人懐っこくて笑顔がキラキラしていました。正直カンボジアの子ども達は可哀想だと勝手に決めつけていましたが私なんかよりもずっと明るく楽しそうでした。勉強する為に仕事しているなんて勉強嫌いな私には考えられませんでした。売り子を見て実感しました。小さな子がバスの前で待っていたり船に乗り込んできたり日本語を上手に使って物を売ってきたりと一生懸命に働いている様子でした。高等学校の生徒さんは同学年とは思えないほどしっかりしていました。英語があまり得意ではない私にも合わせて下さいました。日本語学校では一年しか習っていないのに日本人の私より日本語が上手に感じられました。日本に来ることが夢だと言って下さる方もいてとても嬉しかったです。

観光スポットでは言葉では表せない何かを感じました。町中は日本とはかけ離れていて驚きがたくさんありました。道路一つ渡るのも危なくて大変でした。建設中の病院や学校は思ったよりもキレイでした。

今回この紙には書き尽くせない程の体験が出来たと思います。たくさんの人に伝えて自分自身でも生涯を通して忘れないようにしたいです。このような機会を設けて下さったシンナム国会議員、校長先生にとっても感謝しています。

【枝 廣 佳 樹（2年 さいたま市立三室中学校出身） ～特進類型アブソルートコース～ 】

私は1月12日～17日の間カンボジア研修旅行に参加しました。初めて見たカンボジアは整備されていない道路、たくさん散らばっているゴミなど日本では見たことがない光景ばかりでした。これらのことから国が違うことで社会環境や文化、言語などの様々なことに違いがあると感じた。文化の相互理解や互いに尊重することが、これからのグローバル社会で大切になっていくことだと感じました。カンボジアの子どもたちとは互いに拙い英語ながらコミュニケーションをとることが出来ました。学校を建設し、通わせることは他者と共生し社会性を身に付けることが出来ると感じました。それだけではなく国外から得たお金を国内で効率的に活用し、国を発展させるために必要な優秀な人材を養成することが出来ると感じました。

今回のカンボジア研修旅行では、日本の学校よりも簡素な設備ながら一生懸命勉強をする人達を見て、私達はより一層勉強をしなくてはいけないと感じました。この経験を今後の生活に生かせるように行動していきます。

最後に今回の研修旅行に関わって下さったすべての人達への感謝を表せるように生活していきたいです。

【野 津 彩 香（2年 川口市立領家中学校出身） ～進学類型文理選抜コース～ 】

私は今回の研修旅行に参加して、本当にかげがえのない経験ができたと思っています。特に現地の学生との交流では、色々なことを感じ、考え、学ぶことができました。

一番心に残ったことは、高校を訪問した時のことです。ソフィアちゃんという子と話をしていた時、私が英語がわからなくて会話が止まってしまい、ソフィアちゃんが焦ったような寂しいような顔をしました。その顔を見て、私が英語ができないせいで、と申し訳ない気持ちになっていたのですが、そこにペyson君という4ヶ国語が話せる子が来て、「毎週英語の授業があるはずなのに、どうしてそれだけしか話せないのですか？」と日本語で言われてしまいました。その言葉は胸に深くささり、自分がとても情けなくなりました。この出来事は私の学習に対する意欲を上げました。ペyson君には、次に会う時までクメール語を覚えてくると約束したので頑張りたいです。

他にも、感動したことや発見したことは山のようにあります。この感動を全て伝えるまでが私たちの仕事なので、10人で協力して全校生徒にうまく伝えたいと思います。また、感じ考えたことを実行することや、またみんなでカンボジアに行くことを忘れずに、毎日カンボジアでできた友達のことを思い出しながら、負けずに精一杯生きていきたいと思っています。

【新 井 愛里彩（2年 越谷市立栄進中学校出身） ～進学類型保健医療コース～ 】

このカンボジア研修旅行に行かせていただき、私は自分の価値観・人生観を大きく変えることができました。

一番このことに影響したのは、高校生の子たちと夕食をとった時の出来事です。長岡先生が夕食を食べる前に、なぜこの国の人達はこんなにも勉強熱心なのか、と話した時に同じテーブルの男子が「For my country」と笑顔で小さな声で言ったのです。私はとても驚き、そして自分を小さく感じました。私には、冗談でも勉強の目的を自分の国の為、とは言えません。だから、言えるようになってみたいと、と強く感じました。

この事をきっかけに、私はたくさんのことを考えました。まずは勉強ができるあたり前さです。日本は、義務教育が終わっても高校、さらには大学があたり前になってきている状態です。自分が今、このように浦学に通い、大学を目指している事はあたり前でないことに気付き、また、もっと頑張らなくてはいけないのだ、と感じました。勉強させてもらっている以上、恥の無いよう勉強しよう、と心に決めました。日常生活、勉強、そして将来の夢を持てることに感謝し、これから精一杯努力しようと思います。

そして、このことを学校に、特にクラスに伝える使命感を強く抱きました。今の私のクラスは本当に医療人を目指しているのか疑うくらい、ひどい状況です。絶対にこのままではいけない。私が看護師を目指していることを伝えた時、私も同じだ！嬉しい！と抱き合いながら喜んでくれた子達に申し訳ない、と感じました。この研修の経験を人生の宝物にし、そして伝え、経験を無駄にしないようにしたいと思います。今回、この研修に参加出来たことに、本当に感謝します。研修の機会を与えて下さったシンナム国会議員、私を選考していただいた校長先生、先生方、この研修に関わった全ての人に感謝したいです。ありがとうございました。

【多 田 花 子（2年 さいたま市立白幡中学校出身） ～進学類型アートコース～ 】

私は、6日間カンボジア研修に参加し、浦和学院の代表として、現地に行かなければ知ることのできないことを学びました。

私が最も印象深かったのは、遺跡の素晴らしさ、レリーフを模した石版、仏像など、日本とは、また違う芸術の面が観れました。古来から伝わる御伽噺に置き換え、一つ一つ手作業で出来ている彫刻は、繊細で見物でした。もう一度、見に行きたいと思いました。

次に感じたことは、カンボジアの方々の優しさに惚れました。とある孤児院との交流がありました。私達のことを入口から歓迎され、肩を組んだりして、とても友好的で元気いっぱいでした。名の通り、孤児院にいるのにまったくそのような様子を感じることがありませんでした。私には、まぶしく、せつなく思えてしまいましたが、彼らの明るさに私も元気がもらえました。別れは近づき、お別れ会をしました。最初、出会ったときは楽しさいっぱいでしたが、別れぎわに孤児院の皆が歌を歌ってくれました。歌詞の意味は、わかりませんでした。一つだけわかった歌詞があり、その意味は「ずっと思っている。愛している。」泣けずには、いられませんでした。彼らが最後まで笑顔で励ましてくれました。この感情が知れたことは、説明で伝わるものではなく、現地でしか感じとることのできないものだと思います。他にも、たくさんの人と出会いました。嫌な事もありますが、良い事の方がはるかに多い国です。

最後に心に残ったある方の言葉が、可能性を知りました。『人は優しさと笑顔があれば生きていける。自分のために頑張ることも大事だけれど、そこには必ず「誰かのため」がある。その誰かのためにできる人になりなさい。』この言葉は、カンボジアの研修に参加していなければ、私に響くことがないと思います。カンボジアでたくさんの物を見て、感じ、たくさんのお会い、触れたからこそこの言葉がいつまでも自分の心に残っているのだと思います。私が学んできたことは、全部、現地でしか味わえないことです。まだ、見つけていない感情に出会えます。この先、忘れることもなく、美化することもできない、自分が感じたありのままのカンボジアを大切にしていきたいと思いました。

【南 文 乃（3年 所沢市立山口中学校出身） ～進学類型文理進学コース～ 】

私は、今回6日間のカンボジア研修旅行に行かせていただきました。現地に行く前からすごく楽しみで、映画を見たりネットで調べたりもしました。ですが、調べたものとは全然違うように見えました。

私達は、1日目と2日目に学校や孤児院を訪問をしました。そこで私が見たものは、とても熱心に勉強する生徒達でした。学校自体は空調設備もなく、安全な水道、体育館だってない。とても質素な教室。それなのに、そんな事を全く感じさせないくらい全員が目を輝かせて学んでいました。率直に素晴らしいと思いました。それと同様に、これだけ環境が整っている私達は有効に使えているのだろうか。感謝の気持ちは足りているだろうか。と考えさせられました。それにカンボジアの子ども達はみんな親切でフレンドリーで、何事にも興味津々でした。小中学校に行った時、話をする時間がありました。言葉が完全に通じるわけではないので何回か沈黙になってしまった。けれど、どんな手を使ってでも子供達は必ずめげずに話をしてくれました。とても嬉しかったです。みんな勉強が大好きで笑顔があふれる素敵な学校ばかりでした。

あと、私が見て感じたのは町の違いでした。日本には、細かく外灯があったり道路が整備されているのが当たり前ですがカンボジアは、街並みが日本とは大違いでした。廃墟もゴミも多く、建設が途中で中止されたという話も聞きました。何か改善策はないのだろうか、みんなで考えたりもしました。

この6日間で私達は多くのものを見ました。どうしたらこの国はもっと良くなるんだろうみんなで話し合ったりもしました。そして私達ももっともっと頑張らないといけないなと思いました。パワーのある素晴らしい国です。6日間で得た沢山の事は次は私たちが周りに伝えていきたいと思います。



国際教養の浦学

生徒自身が「感じ・考え・行動する」習慣を高め

海外研修が今後の学校生活、人生の糧となることに期待する!!